

今支館・分館では

『真田を学ぶ』

「バスツアー」

和田分館

は少なめの21名でしたが、公民館手製の案内パンフレットを見たり、会話での交流がなされたりで、行き先への期待が高まりました。

和田分館では区民を対象に生き甲斐づくりを兼ねた親睦交流事業を年間12種類開催。その中でも、年2回行っている日帰り旅行は毎回好評で、今年の春季分をこの5月下旬に第8回目として行いました。今回はこれまでの観光を主体とした内容からやや趣向を変え、歴史鑑賞にしました。それというのも、地元の歴史的遺産はその存在こそ知れ、その詳細についてはなかなか知る機会がありません。また折しもNHKの大河ドラマ「真田丸」が人気上昇中というところもあり、この際真田を学習する絶好の機会と捉え、和田分館独自のプランにより「真田三代ゆかりの地を巡る旅」と銘打った、現地と特別展を鑑賞する旅を企画。

親睦バス旅行にしては目的がやや硬かったのか、参加者



信州上田おもてなし武将隊のお兄さんと

ところで、その行き先は、

旧真田町にある記念公園から真田氏記念館・館跡（お屋敷公園）・長谷寺と廻り、続いて松代では松代城址・真田宝物館としました。更には栗ごはんの昼食後、最後に上田城址内で開催中の「真田丸大河ドラマ館」を見学するコースとしました。平日にも関わらずどこも混雑していました。参加者の皆さんはそれにもめ

げずガイドの熱のこもった説明に聞き入り、感心していました。とりわけ特別展示の物品（例えば長さに驚いた青江の大大刀や、信繁が活躍した大坂冬の陣の合戦絵図など）には関心しきり。

とにかく、今回のイベントが参加者にとって意義のあるものとなり、主催者としては安堵すると共に、参加人数よりも実行する事の大切さを感じたところではありました。

和田分館長 小田中 茂

『中部地区 合同文化展の開催』

田町分館

小諸市の中部地区公民館は本町、田町、六供、相生町、大手の5区より構成され、地域の交流と親睦を図る為に始まり、今年で11回目を迎えました。

当初は本町の町屋館を会場に5区のみなさんの絵画、写真、工芸、書道等の作品を募集し、出展して頂き、合同文化展を秋に開催しておりました。4年程前に相生会館が完成し、会場を移し6月に行うようになりました。

文化展開催については、5区の公民館長と主事が役員になり幹事当番は持ち回りで、今年は田町区が幹事当番となりました。

第1回目の会議は、4月28日(木)午後7時より相生会館内で5区の公民館役員が集まっていた。今年、今年合同文化展開催についてどうするか意見交換を行いました。その中で出展者の高齢化と作品のマンネリ化等が指摘されましたが、それに代わるものが見当たらないこと、折角地域の交流が深まってきている中、この光を消す訳にいかないという意見が大勢を占めたため今年も文化展を例年通り行うことになりました。特に小学生の作品を幅広く取り入れ、当館で行っている絵画教室の生徒達の作品も展示することとしました。

合同文化展は6月11日(土)・12日(日)の2日間に決定し、第2回会議は5月30日(月)に行い出展作品の状況について各区分より発表してもらいました。その結果、例年並みの作品が集まることになり、役員分担作業を決めました。6月10日(金)に役員全員で設営準備と展示作業を行い、6月11日(土)午

前10時より5区長の出席の元開会式を行い2日間に渡って合同文化展を開催しました。



作品展示の様子 (相生会館) 2016.06.10

出展は52名(1222作品)と絵画教室作品数十点となり例年になく若い息吹の作品が彩られ、色彩鮮やかな文化展となりました。

来館者は2日間で100名余の人に足を運んで頂きました。6月12日(日)午後5時を以て文化展は終了し、午後6時より5区長と公民館役員9名で反省会兼慰労会を行い、来年も継続の方向で意見が纏まりました。次回の幹事当番「本町公民館」へ引継ぎをし翌日設営解体と出展者の皆さんに作品を返還し、無事合同文化展を終了することができました。

田町分館主事 掛川 宣夫